

「面倒くさい」が なくなる未来へ



なんだか難しいSDGsを「楽しく、面白く」伝えようとするSDGs BOYS。
2人はそんなSDGsを、皆が当たり前のように実践している社会を作りたいと
考えています。そんな社会を作るための一番のハードルが「面倒くさい」という
思いであると語ります。人は誰しも「面倒くさい」と思い、やるべきことをやら
ない選択肢を取りたくなる時があります。しかし、それが社会や未来の為になる
と思うことができれば、そのことを自然と行動に移すようになり、SDGsも
当たり前のように実践できる未来になるかもしれません。そんな未来を
創りたいという想いこそが、2人の活動の原点です。



📖 関連資料ジャンルのご案内

2F

料理 旅行 住まいと暮らし 美容・健康
ファッション スポーツ・アウトドア **趣味実用**
音楽 ビジネス IT ティーンズ 文学
新聞・雑誌 和歌山ことはじめ 有吉佐和子文庫

3F

総記 哲学・宗教 歴史 **社会科学**
自然科学 医学・薬学 技術・工学
産業 芸術 言語 郷土資料
参考図書 移民資料室

4F

児童書

編集後記

今回は、和歌山市でSDGsの取り組みを行う「SDGs BOYS」
取材しました。

取材では、お二人から私たちの身近に存在するSDGsの事例に
ついてたくさん伺いました。その中で驚いたのが、皆さんの記憶
に新しい、和歌山市の紀ノ川に架かる水管橋崩落事故がSDGs
と関わっていることでした。事故により約1週間の間、和歌山市
北部エリアで断水が継続し、不自由な生活を強いられました。が、
この事故を通し、蛇口を回せば当たり前に出てくる「水」の大切さを
実感された方も多くと思います。実は水のようなインフラに関する
項目は、SDGs「9. 産業と技術革新の基盤を作ろう」に目標として
掲げられています。

項目だけ聞くと難しく感じても、こうして私たちの生活に密接に
関わりのあるSDGs。日常の気付きから、ワンステップ先の「自分
ごととして考える」ことでSDGsと向き合うことに繋がるのだと
感じました。

「和歌山市のごみを無くしたい」と話していたSDGs BOYSの
二人。二人のその熱量によって、いつか本当にごみが無くなるま
ちになるのかもしれませんが。

和歌山市民図書館

WAKAYAMA CIVIC LIBRARY

〒640-8202 和歌山県和歌山市屏風丁17番地

TEL : 073-432-0010

開館時間：9:00～21:00

図書館の詳細情報はこちらから



ホームページ



Instagram



facebook

ワ-ザ
the

WAZA for Local

8

2022.10.1 発行
TAKE FREE

SDGs × 漫才

笑いが生み出す 「自分ゴト」



取材協力：SDGs BOYS

和歌山市民図書館
WAKAYAMA CIVIC LIBRARY

笑いを
通して

SDGs

をおもしろく、
身近に

エスディージョーズ

皆さんは、持続可能な開発目標「SDGs」と聞いてどんなイメージを持たれるでしょうか。日常生活ですでに実践している方もいれば、「難しそう」「壮大すぎて自分には関係なさそう」と感じている方もいらっしゃるかもしれません。そんな中、SDGsをより身近に感じてもらうことを目指し、漫才に挑戦する二人「SDGs BOYS」が和歌山市にいます。世界の目標と、一人ひとりの距離を縮める、魔法の手法に迫ります。

遠くに感じる“SDGs”

SDGs BOYSの二人は、海ごみを減らすことを目指し活動するプロジェクト「うみわかまもるプロジェクト」に所属しています。漫才コンビ結成のきっかけは、そこでの活動や普段の仕事の中の気付きからでした。和歌山市で教員として働く佐々木さんは、こどもの教育現場ではSDGsを題材にした授業などが多々ある一方で、「うみわかまもるプロジェクト」の活動の中で、若者がなかなか参加しない現状に課題を感じていました。一方、和歌山市の収集センターで働く吉本さんは、分別されていないごみの多さに驚いたそうです。そこには、課題として「SDGsの存在が漠然と遠くに感じ、自分ごととして捉えられる人が少ない」という現状があり、何かしらの方法でSDGsとの距離を縮めることが、SDGsの目標達成の第一歩になるのではと考えました。

身近に感じる“漫才”

難しいと敬遠されがちなることをどうやって身近に感じてもらえるかを考えた二人。その答えは、SDGsとは一見関係のなさそうに見える、意外なものでした。なんと、「漫才」を通して、笑いを交え楽しく伝えることで、SDGsとの距離に化学変化を起こせるのではと考えたのです。そこでSDGs BOYSを結成。漫才というフィルターを通し、苦手意識や先入観をなくしてSDGsに触れられるよう、ネタ作りから取り組む日々が始まりました。その漫才では、SDGsBOYSが日々の活動や生活の中で感じた身近な事例や実話を散りばめ、和歌山弁交じりのリズムカルな掛け合いで伝えています。

SDGs BOYS プロフィール

和歌山市内でのビーチクリーン活動をきっかけに、環境問題を面白く学んでほしいと、2021年に漫才コンビを結成。自身の仕事や活動での経験を入れ込んだ漫才を披露している。

写真左 / 吉本勇生さん
(市収集センター職員)
同右 / 佐々木慶彦さん(小学校教頭)

うみわかまもる プロジェクトとは

海ごみや海洋プラスチックを減らすことを目的に活動している。和歌山の海を舞台に、「いま海で起きていること」を感じながら海ごみを集める活動などを行っている。

漫才で魅せる SDGs

プラスチックごみがあふれたビーチにて

家族でビーチに行ってきたんです。そしたらビーチにペットボトルのごみがめっちゃ落ちててん。ビーチが汚いのはあかんって思いまして、落ちてたペットボトルを拾って、そっとやさしく海に返しました!

ってなんでやねん!釣りが!

海に流れたペットボトルは、粉々になってマイクロプラスチックになってしまうねん。そしてマイクロプラスチックを魚が食べてしまって、たくさんの生き物が死ぬっていう大問題になってんねん。

それはアカシヤんか!

海の生態系が崩れてもたら豊かな海じゃなくなってしまうもんな。

真剣に考えよ!

豊かな海を守るために、ビーチクリーンをしよう!
和歌山県のいろんな団体さんがビーチクリーンやってるもんな!